



オリジナルの指導用ツールで、患者さんに分かりやすい説明を

2012年9月取材

東京都北区
奥田クリニック 院長
奥田 武志 先生

JR埼京線の板橋駅から徒歩2分という好立地にある奥田クリニック。院長の奥田武志先生は患者さんにとって有用な情報を日頃からキャッチすることを心掛け、作成した指導用ツールを使って、説得力のある、分かりやすい説明を実践しています。

診療終了後は“ネタ探し”の時間

午後の診察終了後、奥田先生は時間を見つけては各種の勉強会に出席しています。常に「患者さんに有用で身近な情報はないか」という姿勢で参加し、毎回熱心にメモを取り、デジタルカメラで壇上に映し出されたスライドを撮影することもあるそうです。また、毎日のように医師向けのインターネットサイトにアクセスしては、情報を検索しています。「日頃から患者さんにビジュアルを使った“分かりやすい説明”を心掛けています。勉強会への参加は、そのためのネタ探しです」。こうして集めた情報はパソコンの専用フォルダーに収められ、先生自らの手でオリジナルのツールに加工されていきます。



混み合ってくると椅子に座れない患者さんが出るため、急ぎよ、段ボール製の折りたたみソファを導入しました。

患者さんを手ぶらで帰さない



お手製の指導ツールは、常にアップデートされ、患者さんに最新の情報を提供しています。

例えば、生活習慣病で通院している患者さんに食生活の改善を促す場合、まず、都道府県別の死亡率と生活習慣をまとめたデータから、全国で最も死亡率が高い青森県と最も低い長野県のデータをピックアップしたシートを作成します。そして、「青森県と長野県では塩分の摂取量に大差がない。→一方、野菜の摂取量には大きな開きがある(長野県が多い)。→野菜を多く摂取する長野県民は尿のナトリウム排泄量が多い。それが死亡率の低下につながっていると考えられる。→だから、野菜をしっかりと摂取した方がよい」というロジックでツールを作成していきます。「やはり、具体的な事例を掲げると、患者さんの興味も理解度も格段に違いますから」と奥田先生。そして説明が終わった後は、自宅でおさらいできるようにと、使用したツールを必ず患者さんに手渡すようにしています。

休診日には他の病院で検査や手術、当直も

内科を中心に、専門である消化器治療および内視鏡検査、さらには皮膚の小外科手術など幅広い診療を行っている奥田先生の元には、子どもからお年寄りまで毎日さまざまな患者さんが訪れます。1週間に3~4回は勉強会に出席することになるのも、それぞれの患者さんに応じてプラスアルファの情報を提供しているためです。この他、休診日には母校である日本医科大学の健診医療センターで内視鏡検査を行ったり、常盤平中央病院の非常勤医師として外科手術や当直を担当するなど、自身のスキル維持・向上にも余念がありません。多忙な毎日を送る奥田先生は、最後にこう締めくくりました。「今のペースをどこまで維持できるか分かりませんが、“継続は力なり”。気力・体力が続く限り頑張るつもりです」。



内視鏡検査の腕には覚えあり——ただし、ベテランの域に達した今もなお、スキルアップを怠ることはありません。